

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都多摩市鶴牧 1 - 2 6 - 3
園名	キッズサポート多摩第二めぐみクラブ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（ボキャブラリー）

<テーマの設定理由>

- ・言葉の表現の少ない児がいる。
- ・2歳児は言葉の習得時期である。
- ・どのようなアプローチにより、言葉が多く出るのかを研究したい。
- ・絵本が大好きなクラスである。
- ・言葉によるコミュニケーションを多くとっていききたい。
- ・2歳児のイヤイヤの時期において、どこまで表現ができるか知りたい。
- ・言葉のシャワーを沢山浴びさせたい。

2. 活動スケジュール

- ・絵本、ごっこ遊び、粘土、絵画等を通して子どもの言葉を見守っていく。
- ・室内の環境、レイアウトについて話し合う。
- ・子どもの様子に合わせてグループのメンバーの調整。
- ・遊具の検討。
- ・親子で遊ぼう会にて、マルシェのお店屋さんごっこで遊ぶ。
- ・お店屋さんごっこの再現。（ジュース屋、アイス屋、うどん屋、ピザ屋、他、お医者さん、おしゃれコーナー、変身コーナー他）
- ・チケットを使った遊び。
- ・自主的に遊びを発展させ、友達との関りを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・遊び、生活における過ごし方のレイアウト、保育士の動きの確認。
- ・お医者さんの道具
- ・おしゃれセットの道具
- ・ままごとの食材（ジュース、ピザ、うどん、野菜、アイス他）
- ・電車ごっこの道具
- ・チケット等の作成

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 遊びや生活スペースの環境設定。
(絵本のスペース、時間、人数、保育士の動き)
- ② 言葉の多く出る時間、表現を豊かにする時間、他児との関りの時間の確保。
- ③ 保護者と一緒にお店屋さんのやり取りを楽しむ。(遊ぼう会)
- ④ 保育士の動きの確認、話し合い、振り返り。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・はじめは、自分のやりたい事に集中していた。自分が使いたい、自分が遊びたいという気持ちに溢れていた。保育士側から、やり取りのある遊びを考え、お医者さん、お店屋さん、絵本等を通して徐々に他児への関心が高まっていける様に考える事により、関りが多くなる。又、その関りの中にある、気持ちのぶつかり、不安等に注目し、保育士の話し合いの時間を多く持って行った。

中でも、親子でお店屋さん（マルシェ）を企画した事は、大きな発展へと広がっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今年度より2歳児クラスークラスの人数が広がり、25名が一か所で過ごすに当たり、環境がいかに大切であるかを実感する。4月には毎日の環境を変えてみて、どのスタイルが一番落ち着くのかを考えていった。中でも絵本を楽しむ姿が多く、絵本を通して様々な言葉も知らせながら、落ち着いた空間へと変わっていった。

又、次への発展に向けて、ホワイトボードを活用して週の予定、動き等についても職員が共有に時間をかけずに活動に迎える様にしていった事は、やりやすさと時間短縮に役立った。落ち着いた空間、という所に着目すると、人的環境についても大切である事、保護者との共有も不可欠である事に気づきが多かった。

今の事に対する話し合いの時間を多くとり、不安を声に出して解消していく事で、子ども達の様々な関りや表現しようとする様子が変わっていった。